

分類	一般名	商品名	採用 (2025年7月時点)	休薬について	備考
卵胞ホルモン製剤	エストラジオール	エストラーナテープ0.09mg、0.18mg 0.36mg、0.72mg	外 (0.09mg、0.18mg) 内外 (0.72mg)	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ジュリナ錠0.5mg		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照 ※ル・エストロジェル0.06%は産婦人科限定
		エストラジオール錠0.5mg「F」			
		ディピゲル1mg	内外		
		ル・エストロジェル0.06%	内外		
	エストラジオール吉草酸エステル	プロギノン・デポー筋注10mg	内	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【慎重投与】を参照
		ペラニンデポー筋注5mg、10mg			添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	エストリオール	エストリール錠0.5mg、1mg、100μ	内外 (1mg)	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		ホーリン錠1mg			添付文書の【慎重投与】を参照
		エストリオール錠1mg「F」			
	エストリオール（腔錠）	エストリール腔錠0.5mg	内外	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ホーリンV腔用錠1mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
黄体ホルモン製剤	エストラムスチン リン酸エステルナトリウム水和物	エストラサイトカプセル156.7mg	内外	術前は血液凝固能が亢進するため患者のリスクに応じて休薬、 術後は血液凝固能を検査して再開②	抗悪性腫瘍剤
	エチニルエストラジオール	プロセキソール錠0.5mg	内外	患者の背景による血栓症リスクや原疾患の状態を考慮し、 手術前4週間・術後2週間の休薬②	抗悪性腫瘍剤
	結合型エストロゲン	ブレマリン錠0.625mg	内外	術前4週間又は長期臥床状態の患者(治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合は投与可)①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	クロルマジノン酢酸エステル	ルトラール錠2mg	内外	休薬の必要性なし②	
	ジドロゲステロン	デュファストン錠5mg	内外	休薬の必要性なし②	
	ヒドロキシプロゲステロン カブロン酸エステル	プロゲデポー筋注125mg		休薬の必要性なし、患者の状態を鑑みて判断②	
	プロゲステロン	ウトロゲスタン腔用カプセル200mg	内外	休薬の必要性なし②	産婦人科限定採用
		エフメノカプセル100mg	内外	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照、 <u>産婦人科限定採用</u>
		プロゲホルモン筋注用10mg、25mg		血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ルティナス腔錠100mg	内外	休薬の必要性ないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬②	
		ルテウム腔用坐剤400mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	
		ワンクリノン腔用ゲル90mg		休薬の必要性なし②	
	メドロキシプロゲステロン 酢酸エステル	ヒスロンH錠200mg	内外	術後1週間、術前は4週間休薬し、血液検査で血液凝固能を検査する②	抗悪性腫瘍剤、【禁忌】手術後1週間以内の患者 (休薬については、添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照)
		メドロキシプロゲステロン 酢酸エステル錠200mg「F」			
		プロペラ錠2.5mg	内外		
		ヒスロン錠5			
	ノルエチステロン	メドロキシプロゲステロン 酢酸エステル錠2.5mg、5mg		休薬の必要性なし②	
		ノアルテン錠5mg		休薬の必要性なし②	
	ドロスピレノン	スリンダ錠28		休薬の規定ないが、患者の背景に応じて個別判断②	自費
緊急避妊薬	レボノルゲストレル	ノルレボ錠1.5mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与②	自費
		レボノルゲストレル錠1.5mg「F」	内外		自費
子宮内 黄体ホルモン 放出システム		ミレーナ52mg	内	休薬の必要性なし②	正規採用（産婦人科のみ処方可能）。※避妊目的は自費 子宮内に局所的に作用し、血液中へ移行する量は限られるため、 周術期における血栓症リスクに対して休薬の必要性なし すでに装着した状態で骨盤内の手術をする場合は注意

参考資料：①添付文書・F、②メーカー回答、今日の治療薬

分類	一般名	商品名	採用 (2025年7月時点)	休薬について	備考
卵胞ホルモン 黄体ホルモン 配合剤	エストラジオール 1mg レボノルゲストレル 0.04mg	ウェールナラ配合錠		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
	エチニルエストラジオール 0.05mg ノルゲストレル 0.5mg	ブラノバル配合錠	内外	血栓症のリスクに応じて休薬 ^②	
	エストラジオール 0.62mg 酢酸ノルエチステロン 2.70mg	メノエイドコンビパッチ	外	術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【慎重投与】を参照
	エストラジオール安易醋酸エステル 10mg ヒドロキシprogesterone カプロン酸エステル 125mg	ルテスデポー注	内	血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
	エチニルエストラジオール LD 0.035mg ULD 0.02mg ノルエチステロン 1mg	ルナベル配合錠LD、ULD フリウェル配合錠LD、ULD	外 (LD)、内外 (ULD)	手術前4週間から術後2週間まで休薬、 産後4週間まで及び長期間安静状態についても休薬 ^①	マーベロン28：産婦人科のみ処方可能
		アンジュ21錠、28錠	外 (28)		アンジュ、トリキュラー、ラベルフィーユ、マーベロン、ファボワールは自費
	エチニルエストラジオール 0.03mg、0.04mg レボノルゲストレル 0.05mg、0.075mg、0.125mg	トリキュラー錠21、錠28 ラベルフィーユ21錠、28錠			添付文書： 【禁忌】手術前4週以内、術後2週以内、産後4週以内 及び長期間安静状態の患者（血液凝固能が亢進され、心血管系の副作用の危険性が高くなることがある。）
	エチニルエストラジオール 0.02mg レボノルゲストレル 0.09mg	ジェミーナ配合錠	内外 (錠内は患者限定)		※アリッサ配合錠：産婦人科限定採用
	エチニルエストラジオール 0.03mg デソゲストレル 0.15mg	マーベロン21、28 ファボワール錠21、28	外 (28)		
	エチニルエストラジオール 0.02mg ドロスピレノン 3mg	ヤーズ配合錠、ヤーズフレックス配合錠 ドロエチ配合錠「あすか」	外 (フレックス)		
	エストロロール 15mg ドロスピレノン 3mg	アリッサ配合錠	外		
性腺刺激ホルモン	ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン	HMG注射用75単位、150単位	内 (75単位)	休薬の必要性なし ^②	添付文書記載（重大な副作用）に注意 ※卵巢過剰刺激症候群が現れた場合、過剰なエストロゲン分泌により血液濃縮や血液凝固能の亢進が起き、血栓症等を引き起こす
		HMG注射用75IU、150IU「フェリング」	内外 (150IU)		
		フォリルモンP注75、150	内 (150)		
		uFSH注射用75単位、150単位「あすか」			
	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン (注射用HCG)	ゴナトロピン注用5000単位 筋注用1000、3000単位		休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	休薬する場合は、手術予定日から1週間前を目安に行う (HCGモチダ：メーカー回答)
		HCGモチダ筋注用3千、注射用5千、1万単位			
		注射用HCG 3,000単位「F」、5,000単位「F」、 10,000単位「F」	内外 (5千単位)		
Gn-RH アゴニスト製剤	ホリトロピン アルファ	ゴナールエフ皮下注ベン150、300、450、900	内外 (300、900)	休薬の必要性なし ^②	
	フォリトロピン ベータ	フォリスチム注300IU、600IU、900IUCカートリッジ		休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	
	ホリトロピン デルタ	レコベル皮下注ベン12μg、36μg、72μg	内外 (36、72)	休薬の必要性はないが、血栓症などに対し患者のリスクに応じて休薬 ^②	産婦人科限定採用
	コリオゴナドトロピンアルファ	オピドレル皮下注シリンジ250μg	内外	休薬の必要性なし ^②	産婦人科限定採用
	ゴセレリン酢酸塩	ゾラデックス1.8mgデポ		休薬の必要性なし ^②	凝血系への影響等については報告されておらず、手術で問題があったという報告もなし（2021年1月メーカー確認）
		ゾラデックス3.6mgデポ、LA10.8mgデポ	内	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
		酢酸ナファレリン	ナザニール点鼻液0.2%	休薬の必要性なし ^②	
		ブセレリン酢酸塩	スプレキュア点鼻液0.15% ブセレリン点鼻液0.15%	休薬の必要性なし ^②	基礎試験では血液凝固・線溶系への影響はほとんどなし
		リュープリン1.88mg、3.75mg	内 (1.88mg)	休薬の必要性なし ^②	注射用1.88mg：小児科のみ処方可能
Gn-RH アンタゴニスト製剤	リュープロレリン酢酸塩	リュープリンSR11.25mg、PRO22.5mg	内		PRO22.5mg：泌尿器科・乳腺センターのみ処方可能
		リュープロレリン酢酸塩注射用キット1.88mg、3.75mg	内		
	ガニレリクス酢酸塩	ガニレスト皮下注0.25mgシリンジ	内外	該当資料無し	
	セトロレリクス酢酸塩	セトロタイド注射用0.25mg		休薬の必要性なし ^②	
	レルゴリクス	レルミナ錠40mg	内外	休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
排卵誘発薬	クロミフェンクエン酸塩	クロミッド錠50mg	内外	休薬の必要性なし ^②	
	シクロフェニル	セキソビット錠100mg		休薬は不要、患者の背景による血栓症リスク考慮して慎重に投与 ^②	
子宮内膜などの 治療薬	ジェノゲスト	ディナゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外 (0.5mg)	休薬の必要性なし ^②	血液凝固は亢進しないとの文献報告あり
		ジェノゲスト錠0.5mg、1mg、OD1mg	内外 (1mg)		
	ダナゾール	ボンゾール錠100mg、200mg	内外 (100mg)	休薬の必要性なし ^②	
女性 男性ホルモン 配合剤	テストステロンエンタント酸エステル 90.2mg エストラジオール吉草酸エステル 4mg	ダイホルモン・デポー注		術前または長期臥床患者に対しては慎重に投与 ^①	添付文書の【特定の背景を有する患者に関する注意】を参照
		プリモジアン・デポー筋注			添付文書の【慎重投与】を参照

参考資料：①添付文書・IF、②メーカー回答、今日の治療薬